

# ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 12

## 卒業していく高3生へ

校長・園長 大矢 正 則

高3生の皆さん、卒業おめでとう。東星を巣立っていくあなたがたの前途はどんななのだろう。神様はそれぞれの人に幸せになる道をすでに用意してくださっているので、心配はしていない。しかし、神様が用意してくださっているその道を見つけるのには人間側の努力を要する。その努力は我慢といってもいいかもしれない。どれだけ努力しなければならぬか。どれだけ我慢しなければならぬか。ひょっとしたら、どれだけ失敗しなければならぬか。それもまたそれぞれに用意されていて、いくら努力しても報われないと思ってしまうこともあるかもしれない。叫びを上げたくなるほどの我慢を強いられるかもしれない。大失敗に後悔する日が来るかもしれない。他人と比べてしまうときに、そのような思いは強くなる。

残念ながら神様はあなたに対して、他人と同じような成功を用意はしていない。神様はあなたが、他人と同じ努力をしたところで、同じ報いを用意はしていない。同じ我慢をしたところで、他者と同じようにそれを取り除いてはくれないかもしれない。失敗に失敗を重ねる日々があるかもしれない。それぞれに別々の過程と結果が用意されている。そしてその結果は意外なものである場合が多い。これは神様の不公平なのか。

そうではないと思う。神様は一人ひとりをそれぞれユニークな方法で幸せにしてくださる。ユニークとは変わっているというふうにとられがちで、それぞれほどの外れではないが、むしろ、『唯一の』とか『固有の』とか、そういった意味ととらえてほしい。神様は一人ひとりの人間に特別な使命——それは試練といってもいいもの——を与え、すべての人にその使命を達成できる、言い換えれば試練を乗り越えられる道まで用意してくださっている。コリントの信徒への手紙(一)に、「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(10章13節後半)と書かれていることを思い出してほしい。

だから、他者と同じ努力をしても、同じ結果は得られない。他人とは違う苦しみを味わい、違う失敗をし、

違う試練に遭う。もちろん、喜びや達成感も味わう日が来る。これもまた、他者とは違う味わいを呈することとなるだろう。もしも、古典物理学の因果律のように、あるいは、数学の関数のように、同一の原因・入力に対しては、同一の結果・出力が得られるのであったら、人生は味気なく、世の中は殺伐とするだろう。なぜなら、その場合、誰もが同じ方法・目的でしか成功できず、また、たとえば、貧困者は一律に努力しなかった人という烙印を押され、彼等は神様が用意した道を歩まなかった人とみなされ、蔑まれるだろう。今でさえ、そのような視点を持った者が多数かもしれない。この考えは間違いである。

日本のどこかで毎日のように、若者から意味もなく暴力を受ける路上生活者(野宿生活者)がいる。一方、路上生活者が若者に危害を加えることはない。路上生活者は雨の日を嫌う。なぜだかご存知だろうか。それは、雨に濡れるからではない。路上生活者は雨に濡れることを防ぐ生活力は持っている。そうでなければ、路上生活はできない。彼らが雨の日を嫌うのは、その日、若者が皆、凶器となり得るものを持っているからだ。それは傘だ。

東星が開校したときから教え続けていることは、世の中で弱者とされている人の中にも神様がいるということ。いや、正しくいえば、すべての人の中に神様はおられるので、苦労している人には特に心を向けなければならないということ。それはその人が悪いからではなく、その人に用意された幸せになる道がこの世では困難を伴っているのだから、同じ神様によって造られた者がその人の苦労を少しでも理解し共感しようということ。こういうメッセージを東星学園は創立以来ずっと発信してきた。フロジャク神父様の生き様がそれだ。学校だから当然勉強も教えるけれど、それだけなら公立学校や他の私立学校に任せればよかった。しかし、いま書いたこと——すべての人の中に神様がいるので困っている人に会ったら助けること——はどうしても伝え続けたかった。そのために東星学園は存在し続けるし、人間の存在意義の一つはそこにある。つらい思いをしている人のために、周囲の人は存在する。

だから、あなた自身が困ってしまったときは、すぐに誰かに助けてもらうこと。いつでも東星に帰ってきてほしい。先生方が聴いてくださることを約束する。